



2022年 ユニセフ・シアター

「バレンタイン一揆」報告

7月16日(土) 岩手教育会館 多目的ホールにて開催。

コロナの感染者急増や大雨のため、来場者は予定より少ない101名。日本の女の子3人が、ガーナのカカオ農園で児童労働を知り、日本で行動を起こすというストーリー。映画鑑賞後、リモートでこの映画を制作したNPO法人ACEの杉山綾香さんによるアフタートークで質疑応答も行ない、「児童労働」「フェアトレード」について理解を深めた。

当日のユニセフ募金額 26,796円。



杉山綾香さんのトーク



会場から質問

ロビーで、クラフトショップ「彩」さんのフェアトレード商品の販売コーナー。フェアトレードの工芸品、お茶、お菓子、スパイスなどが並んだ。



～参加者の感想より～

- ・児童労働の人数が日本の人口くらいとは驚きました。自分と同年齢の子どもたちが毎日、低賃金で働かされている現実を知り、フェアトレードを意識したいと思いました。(学生)
- ・私がどれだけ恵まれている環境で生活しているか気づきました。現状を知るため、解決するために行動を起こした3人、ACEの方々、現地の村のように自分の意識を変えなくてはいけないと思いました。(学生)
- ・途上国の誰かの負担によって、私たちが低価格で購入していることに抵抗を感じています。どの国の子どもも、その未来は明るいものであってほしいです。(40代)
- ・ガーナのカカオ生産の状況がよく分かりました。児童の労働力を使わなくてもできる生産システムをどう構築するか、考えさせられました。(70代～)



1階ギャラリーでは
ユニセフ・パネル展「アフリカに必要なもの」



岩手県ユニセフ協会ボランティアスタッフ